白岡市立篠津小学校　http://www.sch.city.shiraoka.lg.jp/shinozue/top_shinozue.htm

みどりの風

平成３０年　２月号　　在籍児童数４８４名

学校教育目標
○自ら考えのびる子
○思いやりのある子
○進んで体をきたえる子

メディアがとらえたアクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）

校　長　吉野　高男

「立春」といえども依然として寒さの厳しい日々が続いています。子ども達は、１月の大雪の時には、雪が降り積もった校庭で思う存分雪遊びを楽しみました。子ども達にとって貴重な体験になりました。寒さをものともしないその姿は頼もしい限りです。そのような中、インフルエンザの流行がやや心配されるところですが、子ども達は寒さに負けず健やかな日々を過ごしております。改めて保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

さて、最近皆様の耳にも多く届いていると思われる教育用語で「**アクティブラーニング**」という言葉があります。新学習指導要領の主眼として文部科学省がこれからの時代の教育の形として強く打ち出したものです。改訂案が示され移行期に入ろうかという現在は、「**アクティブラーニング**」を「**主体的・対話的で深い学び**」と置き換えて表現していますが、意義は同じと考えられます。この頃、この「**アクティブラーニング**」が教育関連でない一般情報番組やドラマなどでもしばしば取り上げられるようになっています。

例えば、昨年の秋から冬にかけて某民放局で放映された連続ドラマ、「先に生まれただけの僕」があげられます。私立高校を舞台にしたいわゆる「学園もの」ですが、生徒の様子を描くだけでなく職員室の様子や教師達の葛藤もユーモラスにかつ深く描いたドラマでした。その中で飛び交っていたのがこの「**アクティブラーニング**」という言葉です。生徒の学力向上のキーポイントとなるアクティブラーニング型授業で学校改革するというストーリーでした。これまで学園ドラマの多くは、スポーツを通した型破りの先生と生徒の交流や、けんかしながら友情を深めて……というタイプのドラマが多かったかと思います。ところがこのドラマでは授業そのものを取り上げ、その授業を通した生徒達の変容と自立が描かれていました。

また、1 月 10 日にＮＨＫで放映された一般情報番組の「あさイチ」では「子どもの授業が激変！2018 教育改革最前線」と題して、大きく「**アクティブラーニング**」を取り上げていました。新学習指導要領の完全実施は 2020 年からですが、それを見越して全国の学校で始まっている「改革」をリポートしていました。これまでの学習指導要領では、いわゆる教える〝知識の量“を増減させることが焦点でしたが、今回は「知識を使う力」を身に付けることが、教育の目的に加わりました。思考力・判断力・表現力など、社会に出てから必要とされる力を学校の授業を通して身に付けさせなければなりません。そこで、どんな授業をすれば、「知識を使う力」が身に付くのか。その中で注目されることになったのが「**アクティブラーニング**」である、という展開でした。「子ども達が主体となって学ぶ」授業スタイルが全国の全ての学校で見られるようになるとも論じていました。また、教育改革では大学入試も大きく変わるということで、新たな「大学入学共通テスト」では思考力や表現力に重点を置いた記述式の問題が増えることにも触れていました。

ところで、本校では昨年度から「**アクティブラーニング**」（**主体的・対話的で深い学び**）を取り入れた授業改善の研究を進めています。先進校から情報を得て学び、また、大学の研究者から定期的に指導を受けています。今日も篠津小学校では、一人一人の学びを保障すべく、子ども達をつなぎ、聴き合う関係を大切にした授業に取り組んでいます。機会をとらえ、子ども達の学び合いをご覧になっていただきたいと思います。